

# 風韻あるお人——五井先生の印象

安岡 正篤（東洋哲学者）

人間の精神には知・情・意がある。その中心は情緒であると思う。それらが渾然一体、統一されていけば、その人格は円満であるが分裂している人が多い。感情に偏して理性が乏しかったり、理屈ばかりでひねくれたり、がさがさしている。意志として軌道からはずれやすい。しかし情緒というものは人柄の反映で、心の全体的発動、流露である。

五井先生は情緒の人である。情緒とは別の言葉でいえば潤い、豊かさということである。

知を頭の論理とすれば、情は心腹の論理である。万物と共に生きよう、物と一体となってその生を育もうとする徳を仁という。仁愛は人々への慈悲となる。この慈悲仁愛の情は人格の最も尊い要素である。人は智の人でなくもよい。才の人でなくもよい。しかし、どこまでも情の人でなければならない。

五井先生は本来情の人である。そこが人をひきつけるのだと思う。

五井先生にはリズムがある。音楽的である。例えば完全な機械というものは動いている時も静かである。そしてリズムがある。人間そのものが音楽的になってくるのを風韻などと称する。五井先生には風韻がある。

五井先生は自然である。宗教家にありがちな臭みがない。尊大ぶったところがない。巧んだり構えたりするところがない。実に自然である。だからお話をしてもとても気持がいい。

五井先生は清らかで、明るい人である。人間には清らかさと明るさがなければならぬ。どんなに賢くそうであつても、どこか陰のある人は本物ではない。明るくなくてはいけない。五井先生は陰のない、明るい人である。本物です。五井先生を一目見て気持のよい方だなとわからない人は本物ではない、と私は考える。それ以外に、才能や力があるうがなかるうが、私にとっては問題外のことである。

「私はネ、五井先生を一目見て、いい人だなあと思つたんですよ。女性だったら恋愛というところかな。あの御仁を一目見て、立派な人だなあと思わない人は、自分自身にまだ素直でないものがあるんじゃないか、と私は思ってますよ」

安岡正篤氏（一八九八～一九八三年）の略歴

東洋思想の第一人者。20代前半から陽明学者として活躍。戦後歴代の首相のほとんどが師と仰ぎ、教えをこうてきた人物といわれている。現在の元号「平成」の考案者でもある。